

高等学校 第一学年 国語科 学習指導案

指導日時：令和3年11月9日（火）第3校時

指導学級：第1学年2組（男子17名、女子23名）

指導者：宮城県石巻西高等学校 教諭 高橋 麻里亜

1 単元名〔国語総合〕内容を構成や表現に即して的確に捉える

2 単元の目標

- (1) 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。(読む能力)(国語総合C読むこと(1)のウ)
- (3) 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。
(知識・理解)(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)のイのイ)

3 取り上げる言語活動と教材

【言語活動】問いを立て、その解答を本文中の表現を根拠にして話し合う

【教材】「鏡」村上春樹(第一学習社「高等学校 改訂版 新訂国語総合 現代文編」)

4 指導に当たって

(1) 単元について

本単元は、高等学校学習指導要領国語の国語総合「2 内容」の「C読むこと(1)指導事項ウ文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。」をふまえて設定した。教材は、村上春樹の短編小説「鏡」を使用する。この小説は主人公である「僕」が語り手として登場し、場面が展開されていく。回想する自分と回想される自分とによって構成される一人称小説の特徴を理解しながら、過去の出来事が語り手によってどのように意味づけられているのかを考えさせたい。その際、構成や表現に即して内容を的確に読み取らせるため、自ら問いを立ててその解答を本文中の表現を根拠にして話し合うという言語活動を取り入れる。問いを立てるという内容を深く読み込まないといけない活動と答えの根拠を本文中から探すという活動が、単元目標達成に向けて非常に大きな役割を持つと考えられる。また、「鏡」という日用品を媒介にし、そこから見えてくる主人公の抱えた内面的な問題に迫ることで、単に表面上の意味をとらえることに終わらせないという指導事項ウの学習に適するとともに、生徒自身の自己意識にも目を向けさせることができ、本学年の学年目標である自己理解や他者理解を深める一助になるのではないかと考える。

(2) 生徒の実態

小説に関しては6月に取り扱った芥川龍之介の「羅生門」に続き、本作品で二作目となる。「羅生門」を通じて情景描写や登場人物、心情変化に着目するなどといった基本的な小説の読み方に関する指導は行っている。生徒の様子を見てみると、登場人物の把握や場面展開の把握に関しては自分で印をつけるなどして可視化しながら整理をすることができているように感じる。しかし心情描写の読み取りに関しては、特に直接的な表現がなされない行動や情景に表れる心情描写の読み取りに苦労している様子である。そのため、本文の構成や表現に目を向けさせることで、細かい心情描写を捉える資質・能力を養いたい。

(3) 指導について

生徒の実態でも示したとおり、情景描写や登場人物、心情変化に着目するなどといった基本的な小説の読み方に関する指導は行っているため、それらを踏まえてより構成や表現に目を向けさせ、内容を的確にとらえさせたい。本文を読み、自ら問いを立てその解答を考え話し合うという活動を通し、本文の構成や表現と向きあう時間をしっかりと確保したい。また、自らの疑問をもとに読解に取り組むことで、より興味関心を持って活動に取り組むことができると考えられる。自分の考えたものを他者との話し合いという形で共有することによって、自分一人では見落としてしまっていた情報に気づくという効果も考えられる。ペアワークやグループワークを効果的に取り入れ、生徒の学習意欲を高めながら指導していきたい。

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとしている。	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	・文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしようとしている。

学習活動における具体的評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
・小説に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとしている。	・小説に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	・小説の組立てや表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。

6 単元の指導および評価計画(全 7 時間)

学習項目	時数(本時)	主なねらいに対する 主な学習活動	評価の観点			学習活動における主な具体的評価規準 (評価方法)
			関	読	知	
導入 展開	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 主なねらい: 本文を通読し、段落構成を確認する。 </div> <p>○本文を読み、語句の意味調べを行って段落分けをする。</p>				
	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 主なねらい: 各段落に見出しをつけ、問いを立てる。 </div> <p>○意味段落に見出しをつけ、自分の疑問から問いを立てる。</p>				
	3 (本時)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 主なねらい: 立てた問いに対し、本文の構成や表現を根拠として解答を考える。 </div> <p>○問いを立て、グループ活動を通し解答を考える。</p>	●	●		・本文の構成や表現を根拠にして解答を考えることができる。(観察・ワークシートの記載内容の確認)
	4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 主なねらい: 第一段落・第二段落の内容を表現に即し的確に読み取る。 </div> <p>○内容を整理しながら読み、問題に取り組む。</p>		●		・第一段落・第二段落の内容を表現に即し、的確に読み取ることができる。(ワークシートの記載内容の確認)
	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 主なねらい: 第三段落の内容を表現に即し的確に読み取る。 </div> <p>○内容を整理しながら読み、問題に取り組む。</p>		●		・第三段落の内容を表現に即し、的確に読み取ることができる。(ワークシートの記載内容の確認)

まとめ	6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 主なねらい: 第四段落の内容を読み取り, 考えを共有する。 </div> ○読み取った内容をもとに考えを共有する。	●	・自分の考えを共有し, 他者の考えとすりあわせることができている。(観察)
	7	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 主なねらい: 作品の内容を読み深める。 </div> ○与えられた問いに対して根拠を明確にし, 考えをまとめる。	●	・問いに対して根拠を明確にし, 自分の考えを述べるできている。(ワークシートの記載内容の確認)

7 本時の指導

(1) 題材名 「鏡」村上春樹(第一学習社「高等学校 改訂版 新訂国語総合 現代文編」)

(2) 本時のねらい

立てた問いに対し, 本文の構成や表現を根拠として解答を考える。

(3) 本時の評価規準

評価の観点	具体的評価規準	Aとする具体的な姿	Cへの具体的な手立て
関心・意欲・態度	・グループ活動の際に自分の役割を全うしている。	・自分の役割を全うし, グループの仲間に働きかけながら議論を深めている。	・グループ内での役割を確認させ, 少しずつ取り組ませる。
読む能力	・立てた問いに対して本文の構成や表現を根拠にして解答を考えることができている。	・立てた問いに対して本文の構成や表現を根拠にして解答を考えることができ, 論理的に話を組み立てることができる。	・本文中の, 立てた問いに対する解答になりそうな部分に線を引かせる。

(4) 学習指導上の工夫(主に本時のねらいに対して)

前時には, 本文の大まかな内容を整理し, 各々が疑問に思ったことを問いとして作成するという活動を行った。本時では, その問いに対する解答をグループで考えるという活動を行う。実生活でも必要となる「なぜ」「どうして」という視点で小説を読み進めることで, 論理的思考力を鍛えることも期待できる。自ら問いを立て, 解答を導き出すという探究的な活動を通し, 探究的な視野も同時に養うことができると考える。また, その問いに対する解答をグループ活動で考えさせることで, 構成や表現の根拠が様々な視点から明らかになり, 解答に深みが増すことが期待できる。生徒が話しやすい雰囲気を作りながら, クラス全体に対しても考えを発表できるようにし, ICT機器を活用することで視覚的にも共有しながら, クラス全員が他者の考えを聞くことで自分の考えを深める機会も演出したい。

(5) 準備物

【教員】教科書・ワークシート・PPTスライド・iPad

【生徒】教科書・ノート・辞書・前時のワークシート

(6) 本時の展開

段階	学習活動と主な発問 (●予想される生徒の反応)	形態	指導上の留意点	評価の観点 (評価方法)
導入 5分	1 導入(前時の復習) 前時のワークシートをもとに, 簡潔に振り返る。	A	・口頭で簡潔に振り返る。	
	2 本時の学習課題を知る	A	・本時のワークシートを配付し, スライドに表示した目標を記入させる。	

	学習課題: 立てた問いに対し、本文の構成や表現を根拠として解答を考える。			
展開 40 分	<p>3 四人一組のグループを作り、グループ内での役割分担をする。(5分)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">今から四人一組でグループを作ります。グループ内で役割分担をするので、自分の役割をしっかりと確認してください。</p> <p>4 グループごとに個人で考えた問いを共有する。その中から小説の主題に迫ることができそうな問いと、簡単に答えがでそうな問いを振り分ける。(5分)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">問いの分類をします。小説の主題に迫ることができそうなものと、簡単に答えが出そうなものに振り分けてみてください。</p> <p>5 主題に迫ることのできそうな問いからグループで解答を考えるものを一つ選び、本文の根拠を明確にしながら解答を作成する。(15分)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">司会の進行のもと、グループで協力して問いに対する解答を作成してください。その際に本文中の根拠を明確にしてください。</p> <p>6 各グループで考えた問いと、それに対する解答をクラス全体で共有する。(15分)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">それでは各グループが考えた問いと解答について発表してもらいます。根拠を明確にして発表しましょう。聞き手の皆さんは問いと解答に納得できたかどうか評価をしてください。</p>	G	<ul style="list-style-type: none"> ・簡潔に行う。 ・全員に役割を割り当てることで積極的な参加を促す。 ・役割は、司会・発表者・書記・盛り上げ役の四つに分ける。 ※盛り上げ役はグループでの議論が行き詰まった際に意見を出す役割。本時の目標が達成できるように働きかける。 	
		G	<ul style="list-style-type: none"> ・問いの分類のポイントを明確に示す。 	
		G	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担はスライドに表示して示しておく。 ・本文中の根拠を必ず明示するように指示する。 ・役割を積極的に全うするよう促す。 	【関・意・態】 観察
		G	<ul style="list-style-type: none"> ・発表内容と自分の考えを照らし合わせて評価をさせる。 	
まとめ 5 分	<p>7 本時の振り返り</p> <p>ワークシートを用い、感想の記入などを通して振り返りを行い、次時に行う内容を確認する。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用い、感想の記入・自己評価を促す。 	【読む能力】 ワークシートへの記載(回収後に確認)

※形態:A(一斉),P(ペア),G(グループ)

(7) 学習プリント・ワークシート(別添)

【参考文献】評価規準の作成, 評価方法の工夫改善のための参考資料(高等学校)
<平成24年3月> <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>